

# 報告書

表題：

インスリン等の在宅自己注射での注射針や血糖測定用穿刺針等による家族（介護者）の家庭内針刺し損傷や血液曝露の実態調査

申請者：

薬師寺史厚

助成対象年度（2012年度前期）

提出 2013年8月31日

目的：

在宅自己注射等を原因とする家族間等での感染の可能性を含む針刺し損傷の実態調査などは、現在のところ報告がない。そこで、今回都市部および地方都市（農村部を含む）の薬剤師会の協力での実態調査を実施した。

方法：

船橋市、宇和島市、千葉市、宮崎市郡東諸県郡の各薬剤師会員（200局程度）に対して、下記の説明会を調査事務局が実施して、協力を受諾した調剤薬局の薬剤師による患者や家族に聞き取り調査を行なった。聞き取り内容は、患者や家族より在宅自己注射や血糖測定などでの患者以外の家族の針刺し損傷の有無であり、そのうち針刺し損傷の発生事例について薬局より事務局に送付された報告についてまとめた。

説明会：船橋市薬剤師会 船橋グランドホテル（2012年11月1日）宇和島薬剤師会学術大会 市立宇和島病院 北棟講堂（2階）（2012年12月16日）千葉市薬剤師会在宅介護部会研修会 千葉市総合保険医療センター4階研修室（2013年1月22日）宮崎市郡東諸県郡薬剤師会（2013年3月9日）。

結果：

患者家族からの聞き取りで、成長ホルモン注射やインスリン注射にかかわる針刺し損傷が9例報告された。多くは使用後の針外しのためのリキャップの際に発生していた。

考按：

病院内で起きている同様の針刺し損傷が家庭内で起きことは明確であり、状況によっては感染性疾患の伝搬が起こる危険性が予測された。

在宅注射療法における医療機器に由来する感染危険性について言及した報告は本邦にあっては初めてであり、医療機関で行われている診療行為での解決されない危険性がそのまま在宅医療でも発生する可能性があることを、広く警鐘するものとなると考える。

今後の方針：

調査結果を精査し、詳細については専門学会に報告の予定である。

謝辞：

今回の検討は、調査参加薬局のご努力と「公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団」の助成により行われたものであり、深謝いたします。

感想：

貴財団の助成は無駄でない非常によいものでありました。理由は今回フィールド調査

に近いスタディですが、調査に参加する共同研究者の日程が合わないため旅費は少ないものとなり、かつ当初必要と考えた会場費も薬剤師会などの協力で 0 となりかなりの節約ができました。通常、助成金は使い切りの条件で困るのですが有効に使用し、残金をお返し出来ることは喜ばしく思います。ただ、残金で調査範囲を増やせないことは残念でした。